
白銀の翼と剣

神楽屋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白銀の翼と剣

【コード】

N6837I

【作者名】

神楽屋

【あらすじ】

魔法と魔術とその他色々入ってます。

これは少年と少女の生き残りをかけた戦いの記録？（前書き）

筆者のアリスと申します。こんにちは。

初めてですがどうぞよろしく。

これは少年と少女の生き残りをかけた戦いの記録？

「おはようございます。」

「おはよ。」部屋の扉をあけ、中に入ってきた女性に、部屋の中にいた男は短く返答する。

「朝食の御用意が出来上がっております。」

「ん。わかった。」彼女は、一礼をして部屋から出ていく。

彼の名は六実玲哉。高い身長が特徴で、首には鎖骨にかけて、一筋の傷跡がある。

「起きてますか？お嬢様。」

先程、玲哉の部屋にいた女性は二つ横の部屋の前にいる。

「起きてるよ、紗綾。」

中から女性の声がある。

紗綾と呼ばれた女性は、扉を開ける。部屋の中には、可憐と表現してもおかしくない『少女』がいる。がしかし、彼女の手の中にあるゲームコントローラと目の下の隈を見て口を開く

「また徹夜でゲームですか？」

「三時間ぐらいは寝たよ。あと、ネットゲだよ。」

「どちらにしろ一緒かと。成長盛りの女の子が何をされているのか。」

彼女ははいはい。と軽く返事をして再び前を向く。

彼女の視線の先には、壁一面の銀色のラックと、数台のパソコン、そして数十台のモニターが結合して造られた大画面が、そびえ立っている。

「またモニターが増えてやいませんか？」

紗綾は昨日からかなり広がった目の前のモニターに、再びため息をつく。

「おはよう。玲哉。」部屋から紗綾に（半強制的に）連れられてきた少女は、一足先に来て、食事をとっていた玲哉に声をかける。

「おはよう。玲奈」

彼女、卯月玲奈は玲哉の双子の姉にあたる。

背が低く痩せ型体型の姉と、背が高くスポーツ系身体の弟。二人の事を良く知る友人は姉弟が反対だと良く言っていた。

「姉貴、睡眠不足は美容の大敵だけど？」

「うー。玲哉まで言う。いいもん、かわいい弟が面倒を看てくれるから。」

頬を膨らまし胸を反る。成長中のまだ膨らんでない胸が逆の意味で

誇張されている。

「養わないし。むしろ、喜んで追い出すよ。」

「え〜。カワイソウな私……」泣き真似をする怜奈に対し、玲哉はため息をつき、手に持っていた金柑の実を怜奈の口に押し込む。

「ばにるんろ（なにすんのよ）」モグモグさせながら彼女は言う。

「口に物を入れながら話さないで下さい、お嬢様。」とオープンキツチンの向こうから紗綾に言われる。

「悪かったわよ。じゃなくて、なんで急に口のなかに金柑押し込むのよ。」

「怜奈、金柑の味は？」

「少し酸っぱい……って、話そらなさいで！」彼女は手をぶんぶんさせながら抗議する

「玲哉さま、まだ少し早いようですね。」

「だな。まだあの木は先になるな。」二人はゆっくりとした朝をたのしむ。

「無視するな。」約一名、徹夜なのにとてつもなく元気な少女がいる。

これは少年と少女の生き残りかけた戦いの記録？（後書き）

続きます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6837i/>

白銀の翼と剣

2010年10月16日13時35分発行